

《 今年度の学校運営の反省と次年度の方針 》 橘 正敏 校長

- 学校教育目標の具現化を目指し、安全・安心で魅力ある学校づくりと生徒の学びの保障、「三川中10のコンピテンシー」の育成に向けた教育活動を実施することができた。
- 学習活動や三大行事等への取り組みを通し、生徒間で協力する姿とたくさんの笑顔を見ることができた。また、行事の振り返りを通して、生徒自身が自分の成長と仲間の大切さを感じることができた。
- 地域のリソースを活用した（家庭科授業での裁縫サポート、1年生での地域学習、2年生での職場体験では37の事業所から協力をいただいた。3年生での保育実習など）の教育活動が展開できた。次年度も地域のリソースを活用し、さらなる「魅力ある学校づくり」を推進していきたい。
- 「三川中10のコンピテンシー」については、始業式や終業式等の場面で生徒に話してきた。次年度もさらに浸透させていきたいので、さらに教職員の共通理解を図り、3年間の中で、生徒に培っていきたい。
- 学校だよりやホームページ、安心安全メールを活用しての情報発信・情報提供を行うことができた。
- 様々な悩みや不安を抱える生徒、周囲との人間関係を築けず不登校や不適應をおこす生徒については、スクールカウンセラーや学校支援員との面談や「Mitte」等をうまく活用し、組織的な対応を継続していきたい。
- 防災対応として、学校に生徒を留め置く場合の補食について検討し、備蓄できる食料と水を準備することができた。アレルギー体質の生徒への対応もしている。卒業時に生徒に返す方向でいる。
- 重点施策の1「魅力ある学校づくり」を推進するについては、生徒の声アンケートをもとに、魅力ある学校づくりの取り組みを行うことができた。12月の生徒の声アンケートでは、「学校が楽しい」91.3%、「みんなで何かをするのは楽しい」96%。また、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることができた。「自分にはよいところがある」86.8%、「友だちはあなたのよいところを認めてくれる」96.5%と高い数字を示している。学びの面でも、「学びのユニバーサルデザイン」を意識した授業が展開され、個の理解度や進度にあった学習内容の提示が行われた。2年生は、朝に「菜の花タイム」と称した活動を行っている。構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを活用した活動を取り入れており、次年度も他学年や生徒会で積極的に活用していきたい。
- 施策の2「生徒にとって学びのある授業を創る」については、11月に町の公開研があり、みかわ幼稚園保育園、町内の小学校の先生方や近隣の中学校の先生方に授業を見ていただいた。学習指導と生徒指導の一体化を意識し、質の高い授業づくりに取り組むことができた。その結果、生徒の声アンケートで「授業に主体的に取り組んでいる」92.5%、「授業がよくわかる」90.1%と高い数値に表れた。授業がよくわかるという数値が高くなったのは、授業改善に取り組んだ先生たちの成果である。
総合的な学習の時間については、内容の見直しと年間計画の構築を図っていきたい。次年度、プロジェクトチームを立上げ取り組むつもりである。1年生は、地域学習、2年生は職場体験、3年生については、三川町の課題について学習し情報発信ができればよいと考えている。
- 施策の3「寛容・共生・貢献」の心を育む教育活動を推進するについては、三大行事を通して、主体性の向上、協力・連携する大切さ、他人を思いやる心の成長がみられた。生徒会が企画した、メニメニコミュニケーション等縦割りでの活動が行われた。

○施策の4「高い同僚性をもとに、学び合い、研鑽し合う教職員集団をめざす」では、公開研究発表会や校内研修会を通して、授業改善や教員の資質向上を図ることができた。生徒の思いに寄り添い、生徒の成長を支援することを全職員で心がけ、生徒との信頼関係も向上している。また、全職員が、在校時間を意識し働き方を改善することができた。次年度は、校外研修へ積極的に参加し、その情報を職員間で共有し、生徒のための活用にしていきたい。

《 今年度の学校運営の反省と次年度の方針についての質問や意見 》 各委員から

- ・説明の中にあつた、「構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニング」について教えていただきたい。
- グループエンカウンターは、用意された話題に対して自分の考えを他者に伝えていきながら参加者内のコミュニケーションをとっていくということ、ソーシャルスキルトレーニングは、困ったときなどにどうすればよいかなどについて意見を出し合いながら社会訓練をしていくことで、今の子どもたちが不足している人間関係づくりにかかわる育成法である。
- ・三川中10のコンピテンシーの浸透具合はどうだろうか。
- 普段の教育活動の中で行っていることであり、育てたい資質や能力として記載はしているが、3年間を通して身につけていってほしいと望んでいる。個人差や学年によってめざすことも、深まり方も当然違ってくる。10の資質・能力として、意識してほしいことをあげている。
- ・今の中学生と自分の頃を考えて感じることで、大人との関わる時間が圧倒的に少なくなってきている。部活動も任意加入により先生やコーチとの関わる時間が少なくなっているため、子どもによっての差がある。職場体験で2名の生徒を受け入れた。見ているとできるが、もっとやれるという感じがある。中学生の生活の中で自分たちがもっとできるということを生かす機会が少なくなっているように感じる。自分の目標や夢を叶えるためすすんで体験できる機会をもってほしい。
- ・子どもの声アンケートの結果をみると、町の目指す子ども像三川の子ども（案）で掲げようとしていることに近づいている。難しいのが、「自然や文化を大切にし、未来につなぐ子ども」の項目のような気がする。町を知ることから始め、理解しながら、町の抱える課題に取り組めるような成長過程を踏めればよい。時間的にも大変だ。生きた活動にするためには、アウトプット(情報提供)しながら、感想や批判なども汲んでさらに考えを深めることができれば最高。
- ・今の子どもたちは職場体験の受け入れ先があり幸せだと感じる。自分から求めれば、様々なことが可能な時代になってきている。それを生かせる積極的な子どもになってほしいと感じる。
- ・以前は夏のラジオ体操を中学生がしきってやっていたこともあった。今は、育成会役員も忙しいので期間も短く簡素化してしまっている。地域の事業への参加として中学生の活用を考えていきたい。子どもの減少で育成会組織の存続も危うい。
- ・ふるさとアンケートとして「三川のイメージ」について子どもたちがどんなことを考えているかを探してみたい。「三川の色」とか「三川の風」等々。自分が住むふるさとへの思いが感じられるきっかけとなる。
- ・「ふるさとを離れても、ふるさと三川を想う」心を大切にしたい。自分の体験からもそう思うしありがたい。外に出て三川のよさを知ることは必要なこと。
- ・スマホの問題となるような使用に関しては、学校の問題ではなくスマホを与えた親の責任とすることが大事。問題があるなら使用の禁止をできるのは親である。学校にスマホを持ち込むことが禁止されているし使用に関わる問題は家庭が対処すべき。
学校では、SNSに関わる問題に巻き込まれないようにする講習会を様々な形で行っている。
- ・防災対応として学校が補食を準備していると聞いて学校がやることなのか。避難所として備蓄するものではない。あくまで帰宅が困難となる場合用のみと考えたものである。
- ・致道館ができたことでの影響はないのか。同じ町内会に住みながら学校生活が異なることになる。リーダー的子どもが少なくなることなども考えられないか。